

質疑応答	
市民	概算事業費の説明があったが、何階建てになるのか。
文化課長	駐車場関係者への説明会の時に3階建ての想定で説明させていただいた。建て方の工夫で駐車場をもっと増やすと説明した。最終的に何階建てになるかは、基本設計の中で出す。駐車場をなるべく残すような形で業者に提案をいただく。
市民	分かった。 おそらく3階建てで、基本設計でそれよりも上になるか下になるかというイメージでいればいいか。
文化課長	はい。
市民	要望で、軽食等を販売することは可能か。
文化課長	まだ具体的には決まっていない。 42ページの利用者サービス・交流スペースの部分を見ていただくと、ミュージアムショップや休憩飲食スペースは考えているが、飲食物を販売することまでは今のところ想定していない。 基本設計をつくっていく中で、面積的にもミュージアムショップがほんの一角になることも考えられるので、販売も可能かどうか考えていくことになる。策定委員会で、先生から意見をいただいた中で、実際の博物館であまり利益を追及しなかったとしても、飲食の販売をやっていくことは難しかったという話をいただいている。
市民	資料を適切に保存するために、温湿度を管理できる施設が必要ということは分かるが、今回決まったきらら駐車場自体の気温や湿度は影響がないのか。館内に保存するので場所自体の気温や湿度は関係ないということか。
文化課長	きららについては、108、109ページに場所の特徴の比較表をつけてあるが、これを見る限り、基本的に温湿度に何か特徴があるということは確認していない。一般的な富士宮の気温だと思われる。特別収蔵庫については、壁を二重にする等の工夫をしながら建物を建てていくので、外の環境はなるべく影響を受けないような建物にする予定。
市民	以前議会で近藤議員の一般質問の時に、市長が以前候補地だった白糸自然公園は水分が多く書類等の保管には適さないから、きららの駐車場が候補地になったと言っていたが、外の環境が関係ないなら市長の説明はどういうことだったのか。
文化課長	白糸は、令和4年に説明会を行った時に、白糸で働いていた方から、湿気が大変だという情報をいただいた。ほかにも博物館に詳しい方に話を聞いたが、収蔵庫がしっかりしたものでも、人の出入りとともに湿気が中に入ってくることがあるので、一般的に湿気の多い地域は収蔵庫でいくら守ったとしても、それ以外の部分で湿気の影響を受けると確認しているため、湿気はなるべくない方がいい。
教育部長	外の湿度に関係なく中を整備すればどんな場所でも良いのではないかということだと思うが、そうすると施設に対する建設費用がかさんでしまう。そういった部分も含めて、「建設場所は白糸よりもまちなか」と答弁したものと認識している。
市民	ただそれは、白糸で働いていた人からの話であり、具体的な数字で示してもらい白糸の方が建設費が高くなるなら僕たちも納得できるが、そのような話があったからというだけでは納得できない。
教育部長	それも一つの要因であるが、この基本計画を策定する中で、郊外型か都市型かという議論をしており、その中で策定委員から都市型という意見が出た。白糸の方の意見だけでまちなかにしたということではない。
市民	先ほど、ふるさと納税から積立金をしていると言った。僕の知っている限りでは、2024年のふるさと納税は69億円だが、その中で積立金という項目は出てこなかった。積立金のことは前回の市民説明会では言わなかった。今回初めて聞いた。
教育部長	私は基金という話をした。

市民	ふるさと納税からの積立金と言った。
文化課長	ふるさと応援基金というものがある。
市民	博物館のための基金か。
文化課長	博物館だけではなく、今後の富士宮市のために基金として積み立てているものがある。
市民	いくらあるのか。
教育部長	24億円ある。
市民	分かった。あと2、3年我慢したら40億円くらい貯まるのではないか。 建設場所はなぜきららにしたのか。駅前の13、14階建てマンションの裏に3階の歴史館を建てるのはセンスが無い。 未来を拓く人づくりの拠点と言っているが、選んでいる理由の中で、選定のポイントが全部商店街になっている。言っていることと中身が違うのではないか。およそ15年前に、5億円で買えるものを10億円の予算を出してきららを建てたのに、そこにまた博物館をつくるとはどういうことなのか。 また、都市型と郊外型について、勘違いをしている。都市型というのは地下鉄や電車が通っているのが都市型。富士宮市は全部が郊外型なのだから、もっと選ぶ場所がある。
文化課長	建設場所をきらら駐車場に決めた理由について、105ページにあるが、策定委員会で立地検討していただく際に、全国のいくつかの博物館の事例を委員の方に見ていただいた。その中で郊外型と都市型のどちらがいいのかという意見をいただいた。 それぞれメリット・デメリットがある中で、郊外型は面積を大きくしやすいなどのメリットがあるが、人づくりの拠点という言葉を考えて時に、やはり子供たちが来やすい場所を考えると、都市型はバス一本で行ける、子供が一人で行きやすい、高校生が勉強の場として来やすい、ほかの教育施設との連携が可能、というメリットがある。 105ページの意見を参考に、市の中で都市型と郊外型どちらがいいだろうかということを検討したのが107ページ。委員の方からの意見もあったように、都市型は施設の交通アクセスがいい。 107ページのような意見の中に、まちなかであれば回遊性も期待できるということで商店街も選定ポイントとして出てきた。 最終的に都市型に市が決めた。都市型には2つの候補地があり、111ページにあるように、どちらがいいかということで最終的にはきらら駐車場となった。 駅やバスターミナルがある交通の結節点、子供から高齢者まで公共の乗り物を使って訪れることができる等の点が、人づくりの拠点と結びつくポイントとなっている。
市民	それは全部後付け。何人が博物館を見に来るのか分かっているのか。誰も予想はつかない。子供や高齢者は来るのか。あくまでも想像。 つくってはいけないとは言わないが、なぜこんな場所を選ぶのか。選んだ人のセンスを疑う。お金を使うなら素晴らしいものをつくればいい。24億円も積立金があるならあと20億円足して、もっと素晴らしいのをつくればいい。
文化課長	コンパクトにということで、身の丈に合った、必要最小限で博物館を建てるということで進めてきたので、広いところが良いというのは一つのご意見だが、市ではコンパクトに、まちなかで建設をするように考えている。
市民	30～40億円使うというのは、実際にはコンパクトではない。市の事業にしてみたら随分とウエイトが大きい。そこを考えると欲しい。建設場所をきららに選んだ方々の意見を聞きたい。選んだ方から説明して欲しい。
文化課長	一人が決めたわけではなく、市の中の会議で決めた。
市民	5人でも10人でもいいので、決めた人たちからの丁寧な説明が聞きたい。
文化課長	それは今日お配りした資料の中に書かれている。
市民	ただの書き物であり市民に真心は伝わらない。
文化課長	この基本計画の参考資料のところにも載っている。今回の説明会でも説明させていただいている。

市民	それは後付けで良いことしか書いていない。半分の市民が反対している。そこをわきまえて欲しい。議会も半分に割れた。反対した人々が納得できる説明をして欲しい。
教育部長	まず出発点が、なるべくお金をかけないということで市有地の中からということになり、その中で郊外型か都市型かと検討し、都市型になった。108、109ページを見ていただくと分かるが、きららの駐車場と神田川観光駐車場という、まちなかの比較的広い土地である市有地の中で、どちらがふさわしいか検討し、きらら駐車場に決まった。
市民	白糸でもいいのでないか。今回富士花鳥園はプロポーザルになったが、市の土地は山ほど余っている。栗倉にもある。候補地を5つも6つも挙げて、市民にどこがいいかアンケートを取ってみたらどうか。市が決めたからと頭ごなしに言わずに、どうせつくるなら市民皆が喜ぶようなものをつくった方がいい。
文化課長	38ページの建設場所の考え方について、最初は候補地5つでスタートした。建設場所の決定のポイントとして、都市機能を活かし、歴史文化との融合・学習機能の向上が期待でき、また、委員の方からの意見を踏まえ、人づくりの拠点として選ばれた。 それだけでなく、今後の富士宮市の中心市街地を考えていく上でも活かしていける場所だということを決めた。都市機能、商業地域、駅やバスターミナルの近く、浅間大社の周辺、そして、浅間大社だけではなく、市役所から西駅くらいまでの間にも本当にはたくさんの歴史文化資源がある。また、市民文化会館や中央図書館、交流センターや世界遺産センターもあるので、こういったところと連携して色々なことができると思っている。 説明が足りなかったかもしれないが、今後の富士宮の市街地の発展のために、博物館は必要な施設だと考えた上で、人づくりの拠点として建設場所を決めたというのが市の考え。
市民	富士宮の中心市街地はこれ以上発展しない。富士宮というのは外神から北で、まちなかではない。何も考えずにこれからのまちなかと言っても無理だ。
文化課長	国の交付金の候補として挙げているのが、社会資本整備総合交付金というものの中の、都市構造再編集集中支援事業というものがあり、都市機能を集中させてまちをつくり再生していくために、そこに必要な施設を建てる場合にその施設に交付金が出るというもの。 博物館だけではないが、そういった色々な機能の施設をつくっていき、人口が減ってくる中で、市として、中心市街地を市民の中心、そして拠り所として発展できるようにしなければならない。
市民	無理だ。人口が減り、子供も減っていく。今北部は、まかいの牧場もすごく盛況で、皆が頑張っている。
学術文化財係長	先ほど、ふるさと応援基金が24億円あると申し上げたが、博物館だけのために24億円というわけではなく、まちづくりや子育て全体のための応援基金なので、全部がそれに充てるために取ってあるというわけではない。
市民	24年度に69億円のふるさと納税の明細を見たら、積立金という項目が無かった。そのうち50パーセントは市の予算に組み入れて使っているのではないかと。積立金の話は初めて聞いた。
文化課長	基本的にはその年度の事業にあてていくが、それ以外のものについては、今後のために基金というものを作って積み立てている。ふるさと納税という制度を市が使い始めてから、実際その基金から支出して、予算としてやっている事業もある。
市民	半分使っているのではないかと。
文化課長	今まで積み立てたり、そこから使ったりした中で24億円ということ。
市民	積立金が残っているということか。
文化課長	はい。
市民	24億円残っているということか。だったらそこに20億円か15億円足せば無理なく博物館建設ができる。
文化課長	ふるさと納税は、富士宮市のために市外の方が寄付してくださったもので、色々なところに使っていくものなので、この24億円を博物館だけに使うわけではなく、国の交付金を最大限使った上で、不足分をふるさと応援基金から使っていきたいと考えている。

市民	第一回の説明会で、市民の方が交付金はもう期限が来て締め切ったと言っていた。僕らはその話は知らなかったが。
文化課長	それは文化庁交付金の話だった。
市民	それはもう締め切ってしまったのか。
文化課長	そうではない。文化庁では博物館のデジタルD X化を推進するために補助金による支援を行っており、これは今年度行っているものなので、それがなくなるという話は聞いていない。
市民	市民から声があった時に、ちゃんと行政が説明をしないと市民は情報不足だから分からない。国からもう補助金が出ないのかと思ってしまう。行政がはっきり答えないと駄目。
文化課長	第1回の説明会のとき、意見を述べた市民の方が、どの補助金のお話をされているのかははっきりと分からず申し訳なかったが、その後調べた中で、違う制度の補助金の内容と合わせておっしゃっていたということが理解できた。文化庁のそういった補助金を確認した上で、今お答えさせていただいている。
市民	補助金と交付金は違うという説明をしていたが、僕はそういうことは何も分からないので、そういうことを調べている人もいるんだと思った。何も知らない市民はそう思う。行政はそれに対して毅然とした態度で説明して納得させなくてははいけない。
文化課長	勉強不足だったということは申し訳ございません。今回はその後調べて、お伝えできた。
市民	この後まだ8回ある、今日も20人くらいしか来ていない。30人は集まっていないと思う。告知不足だ。もっと告知しなさい。スピーカーで告知すればいい。そういう努力をしなければならない。
学術文化財係長	告知はこれからも続けていきたい。